

課 程 等		ディプロマ・ポリシー
工芸科学部		<p>本学工芸科学部では、「教育研究上の目的」に掲げた「幅広い教養と高い倫理性を有し、自らの構想力と遂行力・リーダーシップによって、21世紀の産業、社会、文化に貢献できる国際的な理工科系専門技術者 (TECH LEADER) を養成すること」を達成するために、以下に掲げる「工織コンピテンシー」(本学卒業生として有すべき能力)を定めています。</p> <p>この工織コンピテンシーおよび各課程のディプロマ・ポリシーに則った知識と能力、実践力、グローバルな視野とリーダーシップを備えた学生を、国際的に活躍できる理工科系高度専門技術者 (TECH LEADER) となりうる人材と認め、「学士(工学)」(応用生物学課程においては「学士(農学)」)の学位を授与します。なお、卒業認定を受けようとする学生は、本学通則および工芸科学部履修規則に定められた修業年数以上在学し、卒業要件となる単位を修得していなければなりません。</p> <p>学部 ディプロマ・ポリシー(工織コンピテンシー)</p> <p>■ 専門力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自らの学習領域における高度な専門知識・技術を有している。 ・ データ分析活用能力を有している。 ・ 思考力、判断力、ならびに、創造力を有している。 ・ 新しい技術を国内外から学び、改善・発展する能力を有している。 ・ 課題の本質を見極め、その解決に向けた計画を立案し、論理性を持った説明により、他者の理解を得て、実行する能力を有している。 ・ 技術者としての倫理性を有している。 <p>■ リーダーシップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多様性の中でビジョンを掲げ他者を巻き込みながら目的を達成する能力を有している。 ・ 強い自己肯定感を持ち、新たな環境下で忍耐力をもって、チャレンジし、チームを課題解決に導く能力を有している。 ・ 専門の異なる多様な人々と、建設的な議論と相補的な協働を行い、成果へと導く能力を有している。 ・ 社会の情勢や時代の潮流を見極め、経営マインドをもって物事にチャレンジする能力を有している。 <p>■ 外国語運用能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 母国語以外の外国語で社会生活での話題について会話をし、表現をする能力を有している。 ・ 海外から多様な情報や先端技術を自ら収集するとともに、習得した専門知識・技術について外国語で論述できる能力を有している。 <p>■ 個の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生まれ育った国や地域の伝統文化・習慣や歴史、宗教等についての知識を有している。 ・ 言語や文化習慣、宗教など価値観の違いを柔軟に受け入れて円滑にコミュニケーションができる。 ・ 多様化する社会の中でも揺るがない個を有している。
応用生物学域	応用生物学課程	<p>応用生物学課程では、幅広い生命科学の基礎知識とバイオテクノロジーに対する知識・技術を有し、バイオテクノロジーを駆使して人類のベターライフに関わる技術開発が出来る能力を身につけていることが認められれば、学士(農学)の学位が授与されます。</p> <p>本課程のディプロマ・ポリシーの概要は以下になります。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 生物の生体構成分子(タンパク質、核酸、脂質、糖)の構造と機能を理解している。 (2) 生命現象の基本(代謝、遺伝、発生、生理、行動)を理解している。 (3) バイオテクノロジー(遺伝子操作、細胞培養、酵素活性測定、顕微鏡等のナノテクノロジーなど)に関する知識と技術を修得している。 (4) 生命科学とバイオテクノロジーに関して、論理的な文章の記述、プレゼンテーション、討論が出来る。 (5) 社会の諸問題を、データ分析を活用しつつバイオテクノロジーによって解決することができる思考力・判断力・創造力を有し、バイオ産業に貢献できる能力を有している。 <p>これらが満たされているかは、科目群毎に設定された課程の卒業に必要な条件(履修規則別表第4「卒業認定に必要な単位数」参照)と卒業研究の成果によって判定されます。</p>
物質・材料科学域	応用化学課程	<p>学部のディプロマ・ポリシーに加えて、人間的に広く深い素養と自覚を持ち、自然科学をベースとして物質、材料、高分子材料、および機能物質の化学と工学に関する十分な基礎的知識と応用能力を身につけ、将来の地球環境、国際社会、地域産業に貢献できる人材としての素養を有していることが認められれば、学士(工学)の学位が授与されます。</p> <p>本課程のディプロマ・ポリシーを具体的に記すと、</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 自然科学の基礎知識を身につけている。 (2) 物質、材料、高分子材料、および機能物質の化学と工学に関する十分な基礎的知識と応用能力を身につけている。 (3) 卒業研究又は卒業プロジェクトを通じて、将来の技術革新に対応できるような基礎・専門知識とその応用能力を身につけている。 (4) 将来の地球環境、国際社会、地域産業に貢献できる人材としての素養を有している。 <p>となります。学位の授与は、科目群毎に設定された課程の卒業に必要な条件(履修規則別表第4「卒業認定に必要な単位数」参照)、および卒業研究又は卒業プロジェクトの成果によって判定されます。</p>

課 程 等		ディプロマ・ポリシー
設 計 工 学 域	電子システム工学課程	<p>学部のディプロマ・ポリシーに加えて、電子システム工学課程では、電子システム工学分野に関する基礎的な知識と技術を身につけていることが認められれば、学士(工学)の学位が授与されます。</p> <p>これらは、科目群毎に設定された課程の卒業に必要な条件(履修規則別表第4「卒業認定に必要な単位数」参照)を満たしていることと、卒業研究の成果によって判定されます。</p>
	情報工学課程	<p>学部のディプロマ・ポリシーに加えて、情報工学課程では、製造・経済・知的生産活動、あるいは個人や組織の活動など、国内外における社会のあらゆる場面を支えているICTの最新技術を理論と実践の両面からバランスよく修得し、国内外で活躍できる技術者としての素養を身に付けていることが認められれば、学士(工学)の学位が授与されます。</p> <p>修得する具体的事項を以下に示します。</p> <p>(1) エンジニアリングデザイン能力: 限られた人的、物的、時間的資源の制約の下で、社会の要求を解決するために、リーダーシップを持って他者と協働し未来志向の新しいシステムを創出できる。</p> <p>(2) 専門知識と応用力: コンピュータ科学(CS)およびコンピュータ工学(CE)分野の専門知識をもち、それに基づいて持続可能な超スマート社会を実現するハードやソフトを創造し、分析、構築することができる。</p> <p>(3) コミュニケーション能力: 自らの確固たる文化的背景と専門知識を基盤として、国内外の異なる文化や習慣を持つ人々との共同作業ができる。</p> <p>(4) 学習習慣と情報収集・分析力: 技術の爆発的進歩、変化への対応のため、さらにそれらによる将来の社会変化に適応できるため、継続的な学習習慣を持ち、ICTを活用した効率的な情報収集や情報分析を自律的に行うことができる。</p> <p>(5) 技術者教養・倫理: 日本および諸外国の文化理解や環境問題に対する深い洞察に基づいて、技術者の社会的責任を認識し、倫理的に行動できる。</p> <p>これらは、課程の卒業に必要な条件(履修規則別表第4「卒業認定に必要な単位数」参照)を満たしていることと、卒業研究の成果によって判定されます。</p>
	機械工学課程	<p>機械工学課程では、工学的な新価値を創造する高度専門技術者や研究者の育成を目的として、次のディプロマ・ポリシーを定めており、全ての事項を求められる水準で習得したと認められれば、学士(工学)の学位が授与されます。</p> <p>A. 豊かな教養と地球的視点の習得と社会的責任の認識</p> <p>B. 幅広い基礎学力と専門知識の習得</p> <p>C. 国際的に通用する表現力と論理性の習得</p> <p>D. 自律的判断と問題解決の能力の習得</p> <p>学位授与の可否は、科目群毎に設定された課程の卒業に必要な条件(履修規則別表第4「卒業認定に必要な単位数」参照)を満たしているかどうかと、卒業研究の成果によって判定されます。</p>
デザイン科学域	<p>デザイン・建築の制作・製作に関わる基本工学技術を踏まえ、アイデアをモノ・コトに展開する実現力(表現力)や経営的知識・工学的知識・技術といった基礎を身につけた上で、PBL教育の展開によってディレクション能力やコミュニケーション能力、マネジメント能力といった応用的能力に関する素養を身に付けていることが認められれば、学士(工学)の学位が授与されます。</p> <p>具体的には、</p> <p>(1) デザインや建築の制作・製作のための基本技術を有している。</p> <p>(2) 柔軟な感性と創造力及びビジネスマインドを有している。</p> <p>(3) 科学的な思考力と判断力を有している。</p> <p>(4) デザイン、ビジネス、テクノロジーを横断した広い視野を有している。</p> <p>(5) 社会構造・生活環境・経済環境についての広範な知識を有している。</p> <p>です。これらは、科目群毎に設定された課程の卒業に必要な条件(履修規則別表第4「卒業認定に必要な単位数」参照)を満たすとともに、卒業研究・制作における、持続的な取り組みの評価、公開審査などの試問を通して達成度と質疑回答能力によって判定されます。</p>	